

# 母子相互作用における働きかけの質のバランスが 子どもの愛着に及ぼす影響

○園田菜摘 数井みゆき 無藤 隆 宇佐美芳子  
(お茶の水女子大学)

【目的】 乳幼児を育てている日常の生活中で、否定的なかかわり（例えば、「すぐ怒ってしまう」、「にくたらしいと思ってしまう」）について、悩む母親が少なくない。このような悩みや戸惑いを生む背景には、親の敏感で受容的なかわり方を強調した愛着理論の影響があるだろう（Ainsworth et al., 1978）。

実際には、ある程度の敏感さ、受容性や応答性の高さは、乳幼児の安定的な愛着関係の発達に大切であろうが、現実の育児の中では「良い」かわりばかりを実行できるわけではない。つまり、否定的な情動反応を含むかわりよりも、肯定的な情動反応のかかわりが多ければ、「そこそこ」良好な育児環境があるのではないかと考えられる。

そこで本研究の目的は、母親の肯定的情動表現から否定的情動表現を差し引いた情動表現のバランス度を考え、同時に評定した母親の子へのかわり方との関連を調べることで、母親の感情表現度が7ヶ月後の子どもの愛着とどのように関係しているのかを探ることである。

【方法】 (1)協力者 東京とその近郊に住む母子61組。第一回目の調査には、51組の母子から協力を得たが、2回目の追跡調査の時にはそのうちの40組から再度の協力を得た（母親の平均年齢：34歳）。減少した分を補うため、第2回目の調査のみの協力者を11名募った。第一回目の家庭訪問は子どもが35ヶ月の時（幅24~46ヶ月）に、さらに、その7ヶ月後に2度目の訪問をおこなった。

(2)質問紙 The Family Expressiveness Questionnaire (FEQ) (Halberstadt, 1986を修正したもの、Cassidy et al., 1992) を使用して、母親の家庭における情緒表現度を測定した。この質問紙は9件法による40項目からなり、ポジティブ感情表現（以下POSI、18項目）とネガティブ感情表現（以下NEGA、22項目）から成る。それぞれ内的一貫性（POSI:  $\alpha = .90$ , NEGA:  $\alpha = .89$ ）が高いことがこのサンプルでも認められたので、各得点を標準化してPOSI点、NEGA点として扱った。NEGA得点もPOJI得点も、高いことは母親の情動表現が多いことを示す。標準化したPOSI点からNEGA点を引いた得点を感情表現のバランス度とした。

(3)母親の行動評定 1回目の家庭訪問で、母子の自由遊び場面を20分ほどビデオに録画した。

ただし、キッチンセットとぬいぐるみのおもちゃは研究者が持参した。その自由遊び場面において、最初の5分間をとばした時点から、10分間を評定した。評定にあたっては、Clarkら（1980）のthe Parent-Child Early Relationship Assessment (PCERA)の14項目（肯定または否定的感情行動、言語行動、敏感性、干渉性など）を使用し、それに今回「あたたかさ」の側面を加えて、母親の行動を総合的に評定した。5点が「特徴的にもっともあてはまる（または、あてはまらない：否定的な項目のみ）」で、1点が「もっともあてはまらない（または、あてはまる：否定的な項目のみ）」と分布する。ゆえに、評定点の高さは敏感性の高さ、干渉性の少なさ、否定的感情行動の少なさ、積極的感情行動の多さなどを表す。

(4)子どもの愛着安定性 2回目の家庭訪問では、1.5から2時間ほど、日常的な母子の生活場面に研究者が入り込む形で母子の観察をした。その観察の直後に、研究者が母子の愛着安定性を愛着Qソート法（Waters & Deane, 1985）で測定した。

【結果と考察】 母親の感情表現で、肯定的な感情の度合いは、否定的な感情表現と相関しており（ $r = .37, p < .005$ ）、感情表現の多い母親は肯定的にも否定的にも多いことが分かった。さらに、肯定的感情表現度は、母親の行動評定や子の愛着変数とはほとんど関連していないが、否定的感情表現度はそれらの変数で相関が見られた。否定的な感情表現が多いと、母親の敏感性や柔軟性などが低くなり、子どもの愛着とも負の相関であった（ $r = -.37, p < .05$ ）。

感情のバランス度は、その得点が正の値であれば肯定的感情の方が否定的感情よりも多く表現されることを表す。バランス度は母親の行動評定とは正の相関があり、つまり、肯定感情の方を多く表現している母親は、柔軟性や敏感性が高く、干渉性や否定的感情行動が少ない傾向にあった。さらに、バランス度と子の愛着も正の相関があり（ $r = .35, p < .05$ ）、肯定的な感情のバランスが多い方が子の愛着の安定性が高かった。

以上のことは、日常生活で育児をする母親の現実を反映したものといえるのではないかと考える。つまり、「否定的な感情を出してしまった」ということよりも、全体のバランスで肯定的なかかわりが多いことが大切なのではないか。